

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦		
期 間	令和5年7月10日（月）～ 令和5年7月10日（月）		
視 察 先	広島県府中市栗柄町3056番地 府中市立栗生小学校		
視 察 用 務	府中市における小中一貫教育とコミュニティスクールの歩み 市内先進地域の栗生小学校の実践		
視察先対応者	府中市議会事務局		
概要及び所見	<p>現在、三次市もコミュニティスクールを段階的に取組んでいる。より理解を深めるためにコミュニティスクールの先進地域である府中市の先進校として実践をしている栗生小学校に行った。コミュニティスクールの探求ということであるが、府中市は最初に小中一貫教育をやりはじめて力を入れてきた先進地域もある。特にコミュニティスクールについては、4年前に全国大会が開催され成果も上がっていると聞いた。コミュニティスクールは学校だけでなく、周りの方々、保護者、地域の方々の協力、先生たちはもとより地域の方々の協力なくして成立はしない。今回視察した栗生小学校は府中市の中でもモデル校として実践を積まれている。</p> <p>(内容)</p> <p>10:00～</p> <p>府中市教育委員会 教育長から説明を受ける</p> <p>令和元年、コミュニティスクールの全国大会を開催した。学校を核とした地域づくりを推進するとともに、地域と共に学校作りを展開している。栗生小学校においては、この場所がコミュニティスクールを象徴するような場所で、</p>		

(C Sルームを指す) 地域の方と子どもたちが共に学べる場所として、そのコンセプトで作った場所である。学校の教育課程に地域の方の参画をたくさん認めている。子どもたちも地域に帰って地域づくり、地域の一員として取組をしているとの説明があった。

続いて課長より栗生小学校の概要や取組についてレジュメに沿って説明を受けた。栗生小学校は、児童数117名(8学級)の2町を校区にした学校である。地域の特徴として結束力が強く協力的で伝統行事を大切にしてきた地域である。その強みを生かしてコミュニティスクール作りについて説明が行われた。本年度、栗生小学校は創立150周年にあたる年度で地域と一緒にアニバーサリイヤーとして、地域と学校を盛り立てているところである。高校の生徒が行事に入っていくこともある。栗生小学校のコミュニティスクールの取組は、平成25年度の準備期間から始まった。その時、学校・地域・保護者が熟議を繰返し、栗生地域の強みと弱みについて話し合いなどが行なわれた。教育目標を設定するとともに、今まである活動や組織を生かしてコミュニティスクールの取組を考えてきたと説明があった。その後、平成27年に指定を受け活動がさらに充実してきた。目標や意識についても保護者や地域の人たちと共有され、コミュニティスクールが軌道に乗った2年間だった。目指す子ども像を共有して一体となって子育てに取組むことにより、保護者や地域住民が成長をともに喜びあうことで、子どもたちは感謝の心とふるさとの誇りを強く思うようになったと評価されている。同時に地域の活性化にもつながっているとの説明があった。さらに、平成29年度から活動を中心から学びへと転換していった。既存の活動はそのままで、地域の課題と向き合い地域のためにできることを考える。社会に開かれた教育課程で創造にシフトチェンジしていく、このような過程を経て子どもたちは確実に学力の向上と表現力を磨き自己への自信が育つてきていると説明があった。役割については、活動の運営は学校運営協議会が行い、学校は参加の呼びかけとか、作品の整理が主なところだと言われた。結びに地域や保護者の主体的、自主的な活動が展開されていることで責任ある行動が芽生えているとの内容だった。学校を核としたコミュニティの再構築を図ることにも繋がる取組であると思った。短期間で成果を出すことは難しいと感じる。まずは継続していくことを意識して取組むべきだと感じた。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 5 年 7 月 10 日（月）
用 務 先	府中市立栗生小学校 府中市栗柄町 3056
用 務	コミュニティースクール視察
概要及び所見 (目的、参考 にすべき事 項、提言、活 用策等)	<p>視察先対応者：府中市市議会議長・府中市教育長・栗生小学校長 他</p> <p>【概要】</p> <p>府中市は平成 16 年度より小中一貫教育を試行されており、平成 24 年度より CS(コミュニティースクール)の研究着手、H26 年度に一校目の CS の指定、令和元年度には全ての学校に CS を設置完了している。</p> <p>「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の両輪で取組みを進めている。子どもたちの学び=「社会に開かれた教育程」であり、大切にしているものは教育課程を軸にした「熟議」であるようである。</p> <p>栗生小学校は全校児童 110 名程度の学校であり、2 年間の準備期間を経て学校運営協議会を設置しており、栗生小学校は H27 年度に設置されている。栗生小学校は小学校単独型である。</p> <p>校舎内に CS(コミュニティースクール)専用の部屋「ほっクリ」が設置。学校や CS だけでなく、地域の会議等でも使用されており、掲示物などを通して、地域の人々に学校の様子を知ってもらう取り組みをされている。</p> <p>また、ほっクリプロジェクトとして様々な活動をしており、学校は児童生徒のため</p>

	<p>だけでなく、地域の関係者にも自分ごととして取り組んでもらっている。将来に向けての、人づくり・まちづくりの場として、楽しみながら大人の幸せとして進めている。</p> <p>広報としては、「クリティーだより」として、CSの取り組みを地域に知ってもらうよう、高頻度で広報紙にて各戸に回覧されている。</p> <p>CS同士の連携をとっており、先行学校の取り組み、大変好評な事例などは共有、TTP(徹底的にパクる)をして、他のCSで活かしている。</p> <p>【所見】</p> <p>三次市で年度までに6中学校区にてSC設置が進められている。CSが地域とともに実効的に機能していくよう、他市や市内の先行地区の取り組みをしっかりと共有しながら、進めていく必要がある。</p>
--	---

視察・研修報告(復命)書

三次市議会議長様

報告者氏名 藤岡 一弘

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期間	令和5年7月10日(月)
用務先	府中市立栗生小学校（広島県府中市栗柄町3056番地）
用務	行政視察(コミュニティースクールについて)
概要及び所見 (目的、参考にすべき事項、 提言、活用策等)	<p>○栗生小学校でのコミュニティースクールのコンセプトと理念 [コンセプト]自ら開こう未来の扉～学校・家庭・地域その全てをフィールドとして～ [理念]「困難に立ち向かい、前向きに生き抜く子どもの育成」 自主…自ら考え、判断し、行動する。 協働…様々な場で、様々な人たちと協力して活動する。 創造…新たなものを自分たちで創り出す喜びを味わう。</p> <p>○クリティー・スクールの活動 ・クリティー・スクールの歌 　地域の方と協力し、イメージソングを作成。 ・コミュニティースクールカフェ「ほっクリ」 　栗生小学校のCSカフェ「ほっクリ」は、コミュニティ・スクールの活動拠点として、学校内に作られた「学校と地域の学び」をつなぐ場。</p> <p>○所感 三次市でも中学校区を対象に、コミュニティースクールが一部の学校で始まっている。地域の特色を活かしながら、地域で学校運営に参画する仕組みと今後のあり方の参考にしたい。</p>

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田勝彦経理責任者氏名 増田誠宏

期 間	令和 5 年 7 月 10 日 (月)
用 務 先	広島県府中市立 栗生小学校
用 務	府中市における小中一貫教育とコミュニティスクールのあゆみ 栗生小学校のコミュニティスクールの実践
概要及び所見 (目的、参考 にすべき事項、 提言、活用 策等)	<p>本市でも令和4年度から三次中学校区を皮切りに、各中学校区に取り入れようとしているコミュニティスクールの取り組みだが、地域住民や自治連の方々とお話しする中で、まだまだコミュニティスクールがどういった取り組みであるか、何をすればよいのかイメージが付いていない方が多いと受け取れる。また、保護者しかりである。</p> <p>そこで、全国で一番に全市で小中一貫教育を取り入れられ、平成26年度の準備期間から先進的にコミュニティスクールの取り組みを行われている府中市の取り組み概要と栗生小学校の取り組みについて現場で学んだ。</p> <p>府中市の小中一貫教育では「教育が変わる、学校が変わる、子どもが変わる」のスローガンで、9年間子どもたちにかかわり、9年間の独自のカリキュラムを作られています。成果として、学力はおおむね定着し、不登校児童生徒数も減少、補導件数も減少という成果が出ているとのこと。</p> <p>また、コミュニティスクールの取り組みとしては、視察会場となった栗生小学校の取り組みを伺った。「子どもも地域も輝くクリティスクール」のスローガンで、まずは地域住民が地域と保護者と先生で子どもたちを育てるという共通認識で、H25年、熟議を重ねるところから始められた。ポイントは、新しいことをしない、慌てない。ただ、導入の際にはキャラクターを作ったり、かわらばんなどで議論の内容の報告なども行われた。栗生の良いところ探しをされたあと、行事などに一緒に取り組みを始められたが、徐々に地域課題の解決への取り組みを中心に置かれるようになったとのこと。</p> <p>多くの課題を抱える地域も子どもたちの力が必要であり、学校現場や教育においても教員だけでは困難なことも、地域の協力により充実した学校教育を行うことができるというwin-winの関係性づくりがコミュニティスクールの取り組みの肝だと感じた。</p>

本市で取り組むにあたっては、こういった視点をしっかりと活用して、塩町中学校区など複雑な構成の学校においても、コミュニティスクールの取り組みが活発化することで、地域も学校も変わっていくのでは、と感じた。